

第2回 淀江IC周辺用地活用検討委員会 議事録概要版

1. 日時：令和5年5月29日 15:00～16:45
2. 場所：大山町役場大山支所 会議室1
3. 出席委員：11人（欠席6人）
4. 議事概要：下表に示す

事務局	（開会、挨拶、委員紹介、配布資料説明について省略） 議事1. 前回会議のおさらい （省略） 議事2. 整備コンセプトを考える 前回会議の内容を踏まえ、「大山町の豊かな自然環境やゼロカーボン社会に向けた取り組み、観光戦略を反映し、多様な体験ができる観光のゲートウェイ、サイクリング拠点としての用地の活用を目指す」というコンセプト（案）を設定。 構想イメージのフレーズ案として、 ①グリーンパーク ～アウトドアスポーツや食を通して、カーボンリサイクルが体験できる、大山観光への招待～ ②牛の駅 ～町の食を提供する大山横丁を展開し、多彩な大山ブランドやここならではの大山ツーリズムを発信する～ ③お手軽アウトドア ～観光DXを導入し、手ぶら感覚でアウトドアが体験できるようなアクティビティ拠点～ 以上、3つのたたき台を提案する。
会長（司会）	これらのコンセプト、構想イメージのフレーズについて意見を伺いたい。
委員	大山町における課題は平日と休日の差が激しいこと。年間通じて集客も安定し、可能性があるのは食関係。アウトドアだけではなく平日に集客できるか、地元の雇用が生まれることを大事にして議論したい。
委員	集客能力のある魅力的な施設であれば、どのような施設でも良いと思っている。それが売れるか売れないかは経営の問題であり、まずは人が集まる施設を考えたい。
委員	ゲートウェイ（入口）に対して、ハブ（ネットワークの拠点）という言葉を使

	い、山陰圏域にここからあちこち行けるような拠点（オートキャンプ場のような滞在地）にするというコンセプトはどうか。あとは島根原発に何かあった場合に避難者が泊まれるようなスペースに使ってもよい。
委員	店や箱ものを建てると維持費が掛かる。地域の人が気軽に出店できるような簡易的な施設はどうか。我々の税金から出るのであれば、費用は少しでも抑えてほしい。
委員	前はN C R（ナショナル・サイクル・ルート）の拠点ができると県の施策と合致して有効活用できるという話をした。一つコンセプトとして道の駅があるが、自動車専用道路が近くにあり、休憩できるポイントとしてはよい。町の特産物がP Rできる場にもなる。
委員	ハブ的な機能という案は良いと思う。特定の施設だけで完結してしまうのではなく、大山の魅力を伝えていく施設がよい。恵みの里が近くにあるため、道の駅は必要ない。
委員	道の駅は必要ないという意見があったが、自分は道の駅があってもよいと思った。牛の駅はすごく面白いと思う。大山は牛のイメージも非常に強いため、牛や食に携わるような形で作っていくのは面白い。
委員	ハブ機能という意見にピンとくるものがあつた。それだけで全てを語られる施設には、してほしくない。来られる方のイメージを喚起するようなものがあれば広がりを持てるし、何かあつた時に方向転換もしやすいのではないかな。
委員	事務局が準備した道の駅の資料では大きな施設が紹介してあるが、そういった大きい施設を作ってしまうと、維持管理が非常に大変になってくる。あまり大きくない、ハブ機能やサイクリング活用に繋がる施設がよいと思う。
委員	とにかく人に来てほしい。そこでお金を落とすかどうかは別の話。そこに集まって楽しめる事業がしたい。ハブの件だが、ここに来れば5%割引になるとか、ここで聞くと大山町とコンタクトが取れるような形になればよい。
委員	鳥取砂丘の近くに柳茶屋キャンプ場がある。そこではキャンプやバーベキューをしつつ、鳥取砂丘や観光地に寄って帰る人も多い。それに近いものがあつてもいい。そこに管理事務所のような、近隣の情報提供ができる場があればよい。
会長（司会）	簡易な建屋やハブ的な役割という意見が出た。その中でも、何か楽しい施設であつてほしい。大山寺などとも組み合わせることが出来ればよい。N C Rにつ

	いて、ネックや課題、あるいは逆にアドバンテージなど意見はあるか。
委員	サイクリングという点では、眺望のできる孝霊山が利用できれば相互的に遊べる所ができる。
委員	ハブという話があったが、大山町のハブは大山と考える。大山自然環境にはない魅力を海浜部に持たせるのであれば食が考えられる。食系ならば整備だけすれば、民間の出資で事業が可能である。また、広島松江大阪など県外者をターゲットと考えた時に、計画地の立地はゲートウェイとしての機能が果たせる場所となるのか。
委員	山陰をぐるりと観光というルートもあり得ると思う。その場合、計画地は鳥取と出雲の中間辺りで位置的に悪くはない。
会長（司会）	次のテーマ、「どんな施設でコンセプトを実現させるか」について議論したい。
事務局補助	具体例として、案を4つ作成した。 ①民間との連携で大山ブランドの飲食店、それを持ってピクニックに行く ②民間との連携でサイクリングセンター ③RVパーク施設を設置し滞在型観光に対応 ④再生エネルギーを活用した燃料スタンドの設置 一つに限らず複合的に置くことも考えられる。
事務局	これを踏まえて何か意見はあるか。
委員	ある程度の土地面積があるので、何でもできると思う。
委員	もう少し方向性が決まれば枝分かれして考えていけると思う。今のところはまだ意見はない。
委員	近畿圏から鳥取道を経由して山陰道を利用するドライバーは、時間に余裕があり高速にお金をかけたくない方です。そこをターゲットにするのであれば、電源や自分たちで料理する食材を提供するような形がよいかもしれない。平日と休日で使い分けができるとよい。
委員	食関係だったら区画だけ準備すれば、出店を希望する事業者もいるかもしれない。町で準備する部分は最低限にして、小規模の建屋を準備し、コンセプトを明確にした後、そのコンセプトに沿った事業者を募集するのがよい。

委員	サイクリング関連はあった方がうれしい。メンテナンスは必要。休憩や宿泊は不要。R Vパークとバンガローが2棟3棟あればそれで十分。再生エネルギーは分からないが、ガソリンスタンドが1個あればそれでよい。
委員	平日と休日で対応が違ってくる。休日特化型か通年型か。平日なら近在の人がターゲットになるが、その場合何を目立たせるか。観光で来る方とは目線が違ってくる。その辺りを精査してから考えた方がよい。
委員	防災施設に重点を置くのはどうか。ヘリポートや貯水池など防災施設として基本的な整備をして、余った区域はオープンスペースにして、他の地域振興のために利用できるようにすれば財政的にも負担が少ないのでは。
委員	滞在には費用がかかるので、計画地ではR Vパークなど車で寝泊まりできる安価なスペースがあれば選択肢が増える。アウトドアパークとフードテーマパークなど、2つの視点をうまく取り入れた場所が出来たらよい。
会長（司会）	安く泊まれる所ができると、他の大山寺の旅館の立場はどうなるか。
事務局	客層が違うと思う。目的を持った方が大山寺周辺に宿泊される。
委員	防災に関しては、何か施設が必要か。
事務局	防災は国の補助金があるため、道の駅と併せて作られているところが多い。備蓄倉庫や避難所、ヘリポートなど。あとは貯水槽や地下タンクの様な防災機能がある施設もある。
委員	最新のものを整備するよりも、古くならないものを作るのが大事。防災や伝統的なものなど。ベースに地域の人という考えは必要。箱（導入施設）だけ儲かって箱だけ賑わうのはいけない。
委員	実施の際には、市場の方を上手に引きずり込んでできるような事業ができればよい。
会長（司会）	地域の人との関わりということでは、淀江まで視野に入れた方がよいか。
委員	すぐ近くに入浴施設がある。サイクリングして汗をかいたから帰りに風呂に寄って帰れると思う。あとは、妻木晩田史跡公園も近いので何かしらの連携が取れると思う。
委員	利用者としての地域の人もあるが、雇用や仕事づくりという視点もある。大山

委員	町では観光だけで食べていけない人が多い。そういう意味で、新しい仕事を持って、一年を通じてお金を得られる仕組みができれば、すべての地域の人に関わらずとも喜ぶ人は多い。 何十人何百人は無理だが、施設の管理人としての雇用ができたり、農家の人は野菜を出店して儲けることができる。他の地域の人もそうだが、できれば大山町の人が少しでも、ここで色んな形で商売ができればよい。
委員	事業を起こしたい若い人が入れるコワーキングスペースを作って、その人にこの施設の管理を担当してもらい、その代わりに安く利用できる、といったことを考えてもよいと思う。
会長（司会）	何らかのまとめができていないのですが、時間に限りがあるため、本日の議論はここで一旦終わります。
事務局	本日の意見を踏まえ、最終となる第3回委員会を、7月を目標に予定します。利用計画概要や提言素案を提示し議論をします。 以上